

TUBA

チューバ

川浪浩一 かわなみ・こういち



◆出身 福岡県立豊津高校、相愛大学
◆所属 大阪フィルハーモニー交響楽団
◆趣味 野球観戦 お酒を少々!?
◆血液型 B型
◆星座 みずがめ座
◆読者にひとこと 楽しく練習しましょう!
◆手紙の送り先 BJ 気付 もしくは kawanami-bm.tuba@angel.ocn.ne.jp

タンギング練習のポイント

みなさんこんにちは！ 最近とても暑くなってきましたね。僕は暑いのが苦手で、最近よく溶けそうになっていますが、なんとか頑張っています。

さて今回は、僕の大好物の塩タンについて……いや、そうじゃなくて(汗)……おもにタンギングについてです。前回、良い音を出すために大事なことを書きましたが、その続きだと思って読んでください。

■タンギングって何？

みなさんは、タンギングについてどのように考えていますか？ もしかして、「音をハッキリ出すために舌を突く一番大事なこと」だと思いませんか？ 実はそれは大きな間違い！ タンギングは確かに大事なテクニックですが、強く発音しすぎてしまうと演奏の妨げになることもあります。例えば、*p*や*pp*、もしくは低い音になると音が出にくくなったり、速いテンポで八分音符などの連続した音を吹いたときに、息が詰まってしまうように感じる人は、タンギングが強すぎる可能性があります。

まず、覚えてもらわないといけないのは、『タンギングでは音は出ない！』ということです。タンギングとは『舌の動き』のことで、実際に音を出しているのは、『息』なのです。この大事な息を、強いタンギングで止めてしまうと音が出にくくなったりします(タンギングをするなど言っているわけではないからね)。よく見かけるのは、舌を歯に押さえつけてしまったり、音を出す直前に舌で息を止めてしまっている人です。タンギングとは、舌を歯から離すだけで、その時間はほんのわずかだと考えてください。舌に力を入れる必要もありません。必要なのはあくまでも『息』です。少し難しく感じてしまったかもしれませんが、そんなに考え込む必要はありません！ 次に説明する方法を試してみましょう(ヨロコンデ〜!!笑)。

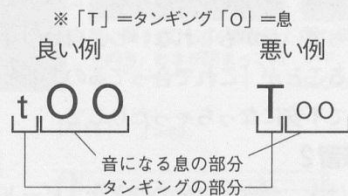
■“おしゃべり”と同じ感覚で

舌は筋肉でできているのですが、「その筋肉の動きを正確にコントロールしろ」と言われても難しいですよね？ しかし、実はみなさんは毎日無意識に舌を正確に動かしているときがあるのです。それは『しゃべるとき！』です。みなさんは友達と話すときに意識して舌を動かしたり、タ行を発音するときにムダな力を舌に入れたりしないですよね？ 舌を意識することなく自然に話していると思います。その発音を、楽器を吹くときに利用してみましょう。

ただし普通に「タ・タ・タ・タ」など発音すると、口の中が狭くなってしまいあまりよくないので、「 $t=to$ 」を英語のように発音してみましょう。「O」の部分が重要で、外国人が驚いたときの「OH!」のようなイメージがいいかもしれません。前回「舌を下げて口の中を広くする」と書きましたが、英語のような発音の方が口の中を広くしやすいので試してみてくださいね。

そして口の大きさを変えないように注意して、小さく発音(タンギング)してみましょう。「と」に近い声ができますが、普通より口の中が大きくなっていることが分かります。息の量とタンギングの関係を簡単に表しておくので参考にしてみてください【図】。

【図】

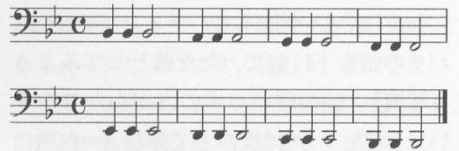


ここで注意！ この練習で、口の中を広くしようとしすぎて、あごの関節が痛くなってしまふ人がたまにいます。関節が痛くなるまで無理に口を開けないようにしてください。あくまで“自然な範囲”で練習するようにしましょう。

■ロングトーンの息を区切るイメージで

最後に実際に楽譜で練習してみましょう。【譜例1】を吹いてください。もしはつきりと音が出なかったら、吹いているときの自分の顔を鏡で見てください。口やあごがクッ◯ーモンスターみたいにパクパク動いていませんか？ この状態で吹くと、音の立ち上がりがなかなかうまくいきません。吹き始めの最初の音は多少あごが動いてもいいですが、2つめの音を吹くときには、あごも口も動かさないように注意してください。ポイントは息の流れを切りすぎないこと。ロングトーンのような息を出して、その息を舌で区切るというようにイメージしてください。

【譜例1】 ♩=80



次に【譜例2】を吹いてみましょう。この練習は同じことを4回繰り返すだけですが、音量がだんだん落ちていきます。逆に、*p*からだんだん*f*に音量を上げていく練習もやってみてください。*f*のときにタンギングを強くしないように要注意です。この練習は、今の段階では少し難しいかもしれませんが、次号で音の強弱について書きます。予習のつもりで気楽に練習してください。

毎回いろいろな説明をしていますが、書いてあることを全部吸収しようとは思わないでください。分かることから少しずつでよいので身につけていってくださいね。少し時間がたってから分かることもあると思うので、気長に楽しく練習してください。ではまた！

【譜例2】 ♩=80

